

・アジア:アジア全域で Dengue 熱患者が急増

今年はアジア全域で例年以上となる Dengue 熱流行がみられています。フィリピンでは 7 月末までの患者数が 16 万人と昨年の 2 倍近くになり、政府は緊急事態宣言を発しました (WHO 西太平洋 2019-8-15)。マレーシアでも患者数は 8 万人と昨年の 2 倍、ベトナムでも 12 万人と昨年の 3 倍の数にのぼっています。南アジアでの患者数も増加しており、スリランカでは首都コロンボなどで 20 万人、バングラデッシュでは 4 万人近くの患者が発生しています (ProMED 2019-8-22)。台湾では南部の高雄市などで 70 人以上の患者が確認されており、台北近郊でも患者が発生した模様です (Outbreak news today 2019-8-14)。各地の流行は 9 月以降も続くことが予想されており、流行地域に滞在する際は、蚊に刺されない注意を十分に心がけてください。

・アジア:ミャンマーなどポリオ発生国でワクチン接種要求の可能性

ミャンマーのタイ国境に接する Kayin 州で今年 5 月～7 月にポリオ患者が 4 人 (いずれも小児) 発生しました (WHO Outbreak news 2019-8-22)。インドネシアのパプア州でも昨年 11 月にポリオ患者が 2 人確認されています (WHO Disease outbreak news 2019-2-27)。米国 CDC は、こうしたポリオ患者が発生している国に 4 週間以上滞在する者について、各国政府が出国時にポリオワクチンの接種証明書を要求する可能性がある旨を発表しました (米国 CDC Travelers' Health 2019-8-21)。ワクチンは出国する 1 ヶ月～1 年前に受けたものが有効です。流行国に 1 ヶ月以上滞 in する場合は、日本の各国大使館などにご確認ください。

・アフリカ:コンゴのエボラ熱流行状況

コンゴ民主共和国で発生しているエボラ熱の流行は 8 月も同様な状況が続いています。最近 1 週間毎の患者数は 80 人前後で、同国中部の大都市ゴーマや、隣国での患者発生はみられていません (WHO Outbreak news 2019-8-22)。8 月中旬までの累積患者数は 2927 人 (疑いを含む) で、このうち 1961 人が死亡しました。なお、WHO はエボラ熱の治療薬に関する研究結果を発表し、Regeneron 社の REGN-EB3 と米国国立感染症研究所の mAB114 が有効であることを明らかにしました (WHO-news 2019-8-12)。いずれもウイルスに対する抗体を用いた治療薬で、コンゴでは既に使用されています。

・**アフリカ**:アフリカ東部でマラリア患者が増加

今年のアフリカ東部でマラリア患者が増加しています。ブルンジでは今年の患者数が 600 万人にのぼっており、1800 人以上が死亡しました(米国 CDC Travelers' Health 2019-8-22)。ウガンダでも 6 月から患者数が増加し、8 月上旬までに 140 万人以上に達しています(英国 Fit For Travel 2019-8-12)。現地滞在中は蚊に刺されない注意をするとともに、薬剤の予防内服も検討してください。なお、ウガンダはエボラ熱の発生国でもあるため、帰国時にマラリアで発熱している場合も、エボラ熱疑いで健康監視の対象になる可能性があります。

・**南半球**:インフルエンザの流行状況

南半球は冬の季節を迎えており、各地でインフルエンザの流行が発生しています(WHO Influenza 2019-8-19)。オーストラリアやニュージーランドでは流行がピークになっており、ウイルスの種類は A(H3N2)型が多く検出されています。南米やアフリカ南部では流行がピークを越えた模様です。現地に滞在中は手洗いなどの予防対策をとるようにしてください。